1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172200343		
法人名	医療法人社団 崇仁会		
事業所名	グループホーム天の花		
所在地	岐阜県海津市平田町仏師川461番地		
自己評価作成日	令和7年2月20日	評価結果市町村受理日	令和7年5月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index_nhp?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JiyosyoCd=2172200343-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和7年3月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>天の花は、医療と介護など専門職員がお互いに協力し、利用者が安心して暮らせるよう日々努力してみます。カンファレンスも定期的に開催し情報共有に努めています。看護師も常駐し、在宅医療専門医が往診に来ていただけるため、医療的管理が必要な方も安心してご利用いただけます。暮らし慣れたところで最期の時を過ごせるような場所でありたいと考えています。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、「想い出深いあなたの町で、あなたらしく大切な時間をあたたかい輪でささえてゆきたい」を理念とし、利用者が安心して暮らせる支援に取り組んでいる。地域の会議・研修・活動に積極的に参加し、地域と交流しながら、行政とも協力体制の強化を図っている。利用者や家族の思いや希望を丁寧に聞き、多角的な視点から利用者の状態を分析しながら介護計画を作成している。季節の花見等の外出行事は、様々な工夫を凝らし、利用者の楽しみとなっている。看取り期には、家族の協力を得ながら、穏やかで温かなケアを行っており、家族からの信頼も厚い。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
43	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:15)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	50	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9)
44	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14,27)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	51	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2)
45	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:27)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	52	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:3)
46	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:25,26)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	53	職員は、活き活きと働いている (参考項目:10,11)
47	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	54	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
48	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:20)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	55	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
49	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:18)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日のフナクリ理念の唱和と1日の出来事の共有をしています。 また、何かあれば早急に報告・連絡し引継ぎを心掛けています。 毎月、理念に対して再認識しています。	利用者や家族も目にしやすい場所に、法人の目標、グループホームの理念、ユニットごとのスローガンなど、職員の顔写真と共に掲示している。毎月の全体会で理念とスローガンを唱和し、実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	祭りや清掃活動に積極的に参加しています。 ご近所の方からお声がけもあり、顔の見える関係が構築しています。	自治会に加入し、祭りや清掃活動に参加しながら、地域との交流を行っている。中学生や特別支援学校の職場体験受け入れを行っており、就職につながった生徒もある。回覧板で認知症カフェの開催を案内している。	
3	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	天の花としての取り組み、事故報告、実地指導の報告、お亡くなりになった方のお話など行っています。 天の花便りも継続して、郵送して活動報告も行っています。	行政、自治会長、民生委員、家族等で構成された運営推進会議を隔月に実施している。活動状況や事故報告、情報交換の場として、意見や相談も受けている。利用者の家族へ案内を出しており、参加する家族も多い。	
4	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認知症施策推進、津市地域在宅医療連携事業、オレンジカフェ連絡会、キャラバンメイト連絡会など津市の担当者と常に情報や取組みを情報共有しています。	市の認知症施策推進、地域住宅医療連携事業等で、市担当者と連携を図っている。地域包括支援センターとの協力関係も構築している。毎月行われる認知症カフェのチラシや、報告書を行政窓口へ持参している。	
5	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を継続して行っています。 5年目に入り、充実し色々話せる委員会となりました。	身体拘束委員会は3ヶ月ごとに実施している。拘束をしないケアについて話し合い、実践に取り組んでいる。施設長が講師となり、身体拘束廃止の指針の読み合わせを行っている。利用者の気持ちを理解し、言葉の拘束についても学んでいる。	
6	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に観察を行い、普段から皮膚の状態は良く観ています。お風呂時や更衣時にもしっかりと観察できていると思います。内出血や皮膚剥離などがあれば速やかに報告できています。日常の介助方法も見直しています。	定期的に虐待防止委員会を開催し、ケアを振り返りながら、虐待の定義や種類、ユマニチュードについても学んでいる。不適切ケアを見過ごすことなく、虐待に関する認識を深めながら、支援方法を見直すなど、虐待防止に努めている。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修会に参加し、研修報告として会議の中で共有しています。		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い同意を得ていますが、遠方のご親族の方から苦情や問い合わせがくることも多いことから顔の見えない家族への対応や説明をしっかりと行う必要があると感じています。		
9	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から家族の面会時に利用者からの意見や要望を伝えています。同時に家族からも意見を聞き、リーダーから各スタッフへ伝えています。	家族の意見や要望は、面会時やSNSを通して把握しながら、運営に活かしている。日々の利用者の様子を知りたいとの要望を受け、LINEで写真や動画を送っている。隔月発行の天の花だよりには、担当者が利用者の状況を書き添えて送付している。	
10	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	1回/月のカンファレンス会議以外に個人面談を実施しています。現場の声に耳を傾けること重要と考えています。	年2回、職員アンケートを実施した上で、個人面談を行い、意見や要望を聞いている。また、毎月のカンファレンス及び全体会議の場でも、積極的に職員の声に耳を傾けながら、意見や提案等を運営に反映させている。	
11	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者及び職員個々の努力や実績、勤務状況を把握するとともに、職員が向上心を持って働けるよう、ワーク・ライフ・バランスに配慮した職場環境や就業条件の整備に努めている	各職員がやりがいを持って楽しく働ける職場作りになるような内部研修や就業環境の整備に努めています。	休憩時間は適切に確保され、休憩室は、シャワー室、トイレ等も完備している。男女別に分けたロッカールームがあり、着替え等の配慮がある。就業環境は法人によって整備されており、勤続年数が長い職員が多い。外国籍職員には、家具付きアパートを提供している。	
12	(10)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に声をかけ不安やストレスはないかを確認しています。表情や勤務姿勢など常に観察し、面談を行っています。研修は積極的に参加できるよう勤務調整しながら行っています。	事業所内のOJTも含め、各研修会を実施している。外部研修へは、施設長が職員の力量に合わせて選んでいる。研修後は報告書を提出し、参加した職員が講師となりカンファレンス会議で伝え、意見交換しながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。	各種委員会や研修等を行っており、議事録もある。また、外部研修に参加した職員は、報告書提出、伝達講習も行っている。議事録や資料を閲覧した際には、職員確認済みサイン欄を設ける等、全職員での学びに繋がりたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会づくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域包括支援センターや社会福祉協議会の方と認知症養成講座を通じて交流をしています。 また、グループホーム協議会や各連絡会などの研修会に参加し、意見交換の場になっています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
14		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	普段の生活の中で、なじみの関係性が出来るよう支援しています。いつもと変わらない関わりの中で業務的な関わりをしないよう心がけています。 逆に馴れ馴れしすぎる対応も配慮しています。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
15	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いを把握して、なかなかご本人の希望に沿ったケアは行えていないように思います。そのひとらしい暮らしの実現をめざしひとりひとりに話しています。	職員は、日々、利用者の思いや意向を聞きながら、寄り添う支援に努めている。意思表示が困難な場合は、表情や生活歴から推測し、家族からも情報を得ている。利用者が望むことを、できるだけ実現できるよう職員間で話し合っている。	
16	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	運営推進会議やご家族様の面会時などに近況報告し話し合いの場を設けるようにしています。 また、現状で出来るケアや今後、起こりうるリスクについてもお話するようにしています。	担当職員が定期的にモニタリングを行い、現状に即したケアプラン作りについて、関係者で話し合っている。本人の思いを大切に、家族や職員の意見、医師、看護師など多角的な視点を取り入れ、検討しながら、介護計画を作成している。	
17	(13)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	タブレットにその日の様子を記入しています。 iPadをみれば分かるよう工夫しています。また、毎朝、ミニカンファレンスを実施し日々の実践に生かしています。	申し送りは手書きで行っているが、個別記録やミニカンファレンスの内容は、時間を決めてタブレット端末に入力している。毎月のリーダーカンファレンスでも、利用者情報を共有し、適切な支援の実践に活かしている。	
18	(14)	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるような工夫をしています。しかし、なかなか柔軟な対応が出来ていないのが現状です。多機能的な関わりが課題です。	「喫茶店へ行きたい」「温泉や公園へ出掛けたい」など、利用者のニーズに臨機応変に対応している。出かけた際の花見団子やコーヒーは、事業所が負担している。必要に応じて、医療機関への送迎も実施している。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や児童や生徒さんとのふれあいを積極的に取り組むことで社会交流が図られています。近隣のコスモスこども園・文化祭・お千代保さん・左義長など地域の施設や行事に参加しています。		
20	(15)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の存在は大きく利用者様の安心に繋がっています。希望された時や必要に応じた医療を受けられるよう配慮しています。	協力医の定期的な往診があり、必要に応じて、適切な医療を受けられるよう支援している。協力医には婦人科専門医もおり、婦人科の病状にも対応できる。眼科や歯科の訪問を受けることもできる。看護師が職員として配置されており、日々、利用者の健康を管理し安心な生活を支援している。	
21	(16)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院された場合は定期的にお見舞いに行き、病棟看護師や看護師長との連携を図っています。また、看護要約などの情報提供を行い、切れ目のない関わりが出来るよう心がけています。	入院時の手続き等は事業所の看護師が行い、サマリーにて情報提供しながら病院と連携している。入院中も利用者が安心して治療を受けられるよう支援し、退院後は不安なく、ホームでの生活に戻れるよう受け入れ体制を整えている。	
22	(17)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度の方や看取り体制に入られる方に関しては本人、ご家族と十分な話し合いの場を持ち、お互いが納得、同意できるよう説明しています。ご本人の安楽を優先して考えています。	契約時に、重度化や看取りに関する支援について説明している。利用者の状態の変化があった場合は医師、看護師、職員がチームとなり、家族の意向に沿って支援している。看護師職員の存在は、本人・家族だけでなく、職員にとっても、不安なくケアを行える体制である。	
23		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	窒息などの事故や急変が起きた場合には速やかに対応⇒報告が出来るよう心がけています。また、カンファレンスなどで急変時の対応の勉強会を開いています。		
24	(18)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施しています。夜間想定も実施しました。災害時の行動の想定なども話し合い進めていきます。	夜間想定も避難訓練や、利用者と共に避難場所まで歩く訓練を実施している。自家発電機を実際に稼働させる訓練や、事前連絡なしで安否確認ツールアプリが使えることを確認している。食料品の備蓄は厨房職員が管理し、1週間分を備えている。	様々な想定をしながら避難訓練を実施している。災害時の備えとして、利用者用の防災頭巾や避難時の職員用ヘルメット等、安心安全を考慮した防災備品の導入に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
25	(19)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	何気なくかける言葉のきつさや相手を傷つける言い方には注意していますが、プライバシーを損ねかねない場面も見受けます。みんなで確認し、注意しあえる関係作りも必要だと思っています。	職員は、利用者一人ひとりの尊厳を守り、思いやりのある声掛けや傾聴を心がけている。同性介助希望の利用者には、希望に沿って対応し、他の利用者の中で、排泄に関する問かけをしない等、プライバシーや羞恥心に配慮するよう努めている。	
26		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人のニーズを日常生活会話からさりげなく聞き出し、ケアプランに載せて実行できるよう工夫しています。自己決定できる環境作りも大切だと感じています。		
27		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせたケアを心がけていますが、職員側の都合で支援してしまう時があります。		
28	(20)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みなどは、事前にアセスメントし提供していますが、ADLの低下で食事形態を変更しています。厨房での調理のため片付けを手伝っていただいています。	毎食、職員手作りで提供している。全員が一堂に会し、賑やかな食事風景となっている。ホットプレートで、焼きそばやホットケーキ作りなどを行う利用者もある。土筆のつくだ煮など、季節を感じる一品も加えている。笑顔で会話を楽しみながら、ほとんどの利用者が完食している。	
29		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療的な管理のもと、食分量・水分量を個別に配慮しています。		
30	(21)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の生活習慣に合わせて、フロア内や居室での口腔ケアの実施はできています。必要に応じて訪問歯科の利用が行えます。	居室に洗面台があり、毎食後に口腔ケアを行っている。自分でできる利用者は見守り、手伝いが必要な利用者には職員がサポートしている。義歯の人は、装着具合を確認し、毎日、消毒をしている。歯科医の訪問診療を受けることができる。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	身体機能を評価して、可能な限りトイレでの排泄を促しています。排泄チェック表を活用し、排泄パターンの把握に努めています。		
32		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人の生活リズムなどに配慮しバイタルサインの測定値を確認・ヒアリング等による体調確認、意向確認を行い入浴しています。曜日を決めて温泉にも入ってもらい楽しい時間作りに努めています。		
33		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息、就寝は本人の思いを確認しながら行っています。生活リズムを整える方、起きていると負担のある方に関しては、離床や休息を促しています。		
34	(22)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は、看護師にて行っています。服薬に関しては、準備された薬を2名の介護職員が氏名・服用時間を確認し予薬を行っています。薬の影響・副作用など理解が必要なため看護師から説明を受けています。	薬剤管理は看護師が行い、服薬支援は複数の職員で支援しており、これまでに誤薬はない。毎回、飲み込みの確認を徹底している。薬の変更時には看護師が職員に詳細な説明を行い、体調の異変等が生じた時は、看護師に伝え、医師の指示を仰いでいる。	
35	(23)	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や趣味などを把握して出来ることなどをアセスメントし、行ってもらってます。日常生活の中で出来ないことは、さりげなく職員が行い、不快のないよう努めています。	洗濯物たたみや職員と行う居室掃除、ホットプレートを使用しての調理など、利用者が生活の中で役割を持って行えるよう支援している。カラオケや季節の作品作り、夏祭りで、利用者が法被や浴衣姿になり、クリスマス会では近隣の園児を招くなど、利用者が楽しめる工夫をしている。	
36	(24)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	本人の希望により散歩等出来るだけ行うよう支援しています。家族が来所され外食や中央ホールでの団欒での食事など施設をオープンにしてその人の思いに寄り添える支援をと努めています。	梅、桜、紫陽花、紅葉など、季節に合わせて年間外出支援計画を立て、実施している。家族と食事に出かけてり、一時外泊する利用者もある。職員との食材買い出し、知人に会いに喫茶店に行くなど、利用者の希望に臨機応変に対応している。	

岐阜県 グループホーム天の花

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所にあたり、今までお金を所持していた利用者が突然お金が持てないことは、とても辛いです。 その人に応じて金銭を管理してもらっています。		
38		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて随時対応しています。		
39	(25)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に季節感が味わえる物や飾り物そしてアロマオイルで臭覚の刺激。 利用者が心地よく暮らしてもらえるよう心がけています。	地元の木材を使用し、いくつものドームが集まったような個性的な建物である。室内はオールバリアフリーで、中央ホールは吹き抜けで明るい。季節の花や置物が飾られ、換気や温度調整がされ清潔である。利用者は、新聞や雑誌を好きな時間に読んだり、中庭で放し飼いのチャボや地鶏の様子を眺めるなど、穏やかに過ごすことができる環境である。	
40		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者が心地よく過ごしてもらえる環境作りを心がけています。また、気の合った利用者同士で会話ができる場の提供に努めています。		
41		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族の思いで馴染みのある物を持ってきてもらい落ち着ける空間作りができるよう心がけ工夫している。		
42		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	その方の残存能力をアセスメントして安全・安心に日常生活が送れるよう支援しています。 季節感の味わえる花や飾り物や食物も施設周りに植え実を収穫してもらっています。		